

## サイン&ディスプレイ業を通じてできる職業奉仕

私の職業であるサイン&ディスプレイ業はお客様の思いやメッセージを「形」にし、人々の目に届く場所へと届ける役割を担っています。

だからこそ、この仕事には社会に対する奉仕の精神が自然と含まれていると感じています。2年前コロナ明けに私が所属している米沢中央ロータリークラブでは地域の活性化を目指して！地域の小学生達と一緒に活動をしたいという当時の平山会長の熱い思いを受け「みんなでつくろう！四季いろどりの木！参加型ディスプレイをみんなで作成させよう」というプロジェクトを立ち上げました。

コロナ禍の中、全ての人々の活動が制限されてしまいました。特に子供たちはさまざまな活動が制限され、本来経験するべきほかの仲間との繋がりや活動を体験することが出来なかったと思います。

出来る限り色々な人々に参加してもらいたいという思いでこのプロジェクトを立ち上げました。まず設置場所を観光客・通勤客など多くの人が行き交う米沢駅構内に決め 米沢駅長様・米沢市役所の方々などに全面的に協力していただくことが出来ました。

米沢市内の全小学校の6年生に弊社で準備した色とりどりの葉をモチーフにしたカッティングシートに米沢の未来（夢・期待）「自慢できるところ」、「米沢がこんな街になってほしい」、「こんな街にしたい」などを言葉や絵で書いてもらい土台となる木の形のディスプレイ台にカッティングシートを下半分のスペースに貼り付けて展示しました。

米沢中央ロータリークラブのメンバー全員にステッカーの裏におみくじを手書きで書き入れてもらい、その表に観光客の皆さんからのメッセージを書いてもらい上面の空きスペースに貼ってもらうことで、地域と訪れた人々の思いが一つにつながる交流の木「いろどりの木」が完成しました。

完成した「いろどりの木」は、駅を利用する観光客や通勤客の目に触れる場所に設置され、多くの人々が足を止めて子どもたちの言葉に見入っていました。

この取り組みを通して、私はサイン&ディスプレイの仕事が単に情報を伝えるだけでなく、人と人をつなぎ、地域に温かい気持ちを広げる力を持っていることを改めて感じました。子どもたちの思いを「形」にし、それを多くの人に届ける場をつくることは、私にとって大きな職業奉仕の一つであります。

今年度も島貫会長のもと、第2弾として「華やかな四季カラフルツリーをみんなで作ろう！」を米沢の歴史の中心でもある上杉文化エリアの上杉城史苑にて開催しています。また沢山の方々とは交流できることに感謝したいと思います。